

人工光合成研究センターの開所にあたって

今般、大阪市立大学におけるこれまでの光合成基礎研究の成果を集結し、企業との更なる産学連携を促進することにより、人工光合成応用研究へと発展させ、安全かつ安心なクリーンエネルギーの創出を達成すべく、大阪市の平成 23 年度補正予算より総額 8.8 億円の補助を受け、約 2 年をかけて完成した施設として「人工光合成研究センター」を開所することとなりました。

石油を初めとする化石資源の枯渇が危惧される中、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災において、原子力発電の危険性が現実のものとして我々に見せつけられました。世界的規模で、石油・原子力に変わる安全なエネルギーの模索が始まった折、本センター所長の神谷教授が、光合成反応の中心をなす蛋白質（PSII）の構造を克明に解析した研究成果を発表し、世界的科学雑誌「Nature」に掲載されたことは、「時代の要請」であったと言っても過言ではありません。

のちに、この研究成果が、アメリカ「Science」誌の 2011 年度 10 大ブレークスルーに選出され、2012 年度朝日賞を受賞するに至ったことは、その裏付けとも言えます。大阪市立大学では、この「時代の要請」に応えるべく、学内外の英知を集結し、人工光合成技術の応用により、次世代循環型クリーンエネルギーの創出を実現すべく、大阪市の協力を得て、まさに「産学官連携」の拠点として、本「人工光合成研究センター」設置事業を推進して参りました。

多くの皆様のご支援により、今日の開所を迎えることができました。この度の開所こそが当該事業の本当のスタートとなります。

皆様方には、なお一層のご指導・ご鞭撻をいただき、可能な限り早期に、明るい未来を支える「新エネルギーの創出」を現実のものにするべく努力を重ねるつもりでございます。

今後とも引き続き、ご支援・ご協力賜われますよう、どうぞよろしく願いいたします。

平成 25 年 6 月 吉日

公立大学法人大阪市立大学

理事長 西澤 良記